

令和6年度 第2回 鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）推進委員会 議事要旨

日時：令和7年1月24日（金）14：00～16：00

場所：鶴見区福祉保健活動拠点 多目的研修室 ABC

推進委員：小林委員長、八森副委員長、

石井委員、板山委員、祝出委員、押山委員、小林(広)委員、福井委員、増子委員、松坂委員、宮野委員

（欠席：齊藤委員、清水委員、巴委員、日向委員、平森委員）

事務局：【区役所】

鶴見区長、鶴見区副区長、福祉保健センター長、福祉保健センター担当部長、福祉保健課長、高齢・障害支援課長、こども家庭支援課長、学校連携・こども担当課長、生活支援課長、生活支援課担当課長、区政推進課地域力推進担当課長、福祉保健課事業企画担当係長、高齢・障害支援課地域包括ケア推進担当係長、区政推進課地域力推進担当係長、事業企画担当職員

【区社協】

鶴見区社会福祉協議会会長、事務局長、事務局次長、事務局職員

1 開会（進行：福祉保健課事業企画担当係長）

写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認。

委員長あいさつ

皆様におかれましては、日頃から鶴見区の各地域において様々な活動に取り組まれていると思います。自治会町内会を代表いたしまして感謝申し上げます。大変ありがとうございます。

さて、先月はすべての委員が集まって会議を開き、計画内容の検討を行いました。本日は事務局から新たな計画の方向性等について説明があります。説明を受けて、皆様の思い、感じられることをご発言いただき、活発な会議となることを期待しています。どうぞよろしくお願いいたします。

2 区長あいさつ

本日はあいねっと推進委員会にご参加いただきありがとうございます。委員の皆様方におかれましては、これまでプロジェクト等を通じて、あいねっとの計画推進、新たな5期計画策定に向けて様々なご意見をいただきましたことを、この場を借りて感謝申し上げます。

小林会長からもありましたが、本日は5期計画の方向性の説明、来月のあいねっと推進フォーラムの内容のお話があるということです。先ほど言いましたように、これまで5期計画の方向性についてプロジェクトで様々なご意見をいただいております。このあと、さらに本編を含めて計画を策定していくこととなりますので、ぜひ皆様方の日々の活動の中で感じられたことや、日頃思っていること等を次の計画に活かしていけたらと思っていますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思っています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 区社会福祉協議会会長 あいさつ

社会福祉協議会としまして、日頃から皆様方に大変ご尽力いただきまして感謝申し上げます。ありがとうございます。私どもも引き続き、地域に寄り添いながら、我々職員も笑顔で日頃から接していくという心構えで、地域の方々とお話や相談を受けたり、ご支援したりと、微力ながら活動しております。これもここにいらっしゃる皆様方のお力添えがなければ、社会福祉協議会の活動は思うようにできません。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

4 議事（進行：八森副委員長）

（八森副委員長）本日の議題の確認。

（1）第5期鶴見区地域福祉保健計画の方向性案について（説明：区社協事務局次長）（資料2）

資料2（第5期鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）の方向性案）をもとに、次の通り説明した。

資料2については、これまで推進委員会の作業部会的な位置付けで策定検討プロジェクトを2回開催し、委員の皆様からいただいた多くの貴重なご意見を反映してまとめたもの。全体として、地域福祉保健計画が自分に関係ないものと思わないように、どのような立場の人でも自分がこの輪に入っていると思えるように、わかりやすく、親しみを持てるような内容を目指した。

まず、「鶴見・あいねっと」が目指すものについては第4期と変わらないが、基本理念の下に改めて図示し、みんなで目指すことをわかりやすくした。特に、「みんなで」という点を強調しているのが特徴である。図については、第4期にもあった（あいねっとに関係する方々・団体等を例示した）円の中に区全体計画と地区別計画を記載し、目指す姿を区全体、地区それぞれ、住民一人ひとりとそれぞれが目指していくことを表している。

柱1から3についても第4期をベースに、ご意見をもとにバージョンアップした。柱ごとの目指す姿を追記した点が第4期からの変更点だが、第3期はあったものを再度記載した。

柱1「多様な人や団体が参加し、つながっている地域」については、これまでは「つながりのある地域」という表現だったが、より多様な人や団体が参加し、みんなでつながっていくことを強調した。特に鶴見は多様性があり、とてもポテンシャルが高いことを踏まえて、目指す姿にもあるように、いろいろな人がつながっていき、人材の課題にもつながりあいながら取り組むことを盛り込んだ。

柱2「困ったときにお互いに気づき、助けあえ、支援が届く地域」については、従来は「困ったときに支援が届く地域」という表現だったが、お互いに気づいたり助け合いができて支援が届くということを追加した表現になっている。目指す姿でも相互理解を強調しているが、いろいろな方の背景をお互いに理解できるようにと、第4期から引き継いだ内容になっている。

柱3「誰もが自分らしく健やかでいられる地域」については、第4期は「健やかでいられる地域」としていたが、「誰もが自分らしく」を追加した。健康の話題は年を取ってからと考えがちだが、目指す姿にもあるように、健やかでいられるには年齢や障害に関わらずあらゆる人が参加できること、居場所や役割が持てる機会があることなど、単に身体的な健康でなく、いきいきといられる姿も重要とのご意見から追加した。

(八森副委員長) 皆様からいただいたご意見や課題を踏まえた方向性となっていると思う。第4期計画で記載のあった「推進の土台」は一旦方向性からは記載がなくなるが、第5期計画でも引き続き重要な要素になってくるため、それを踏まえて計画本編の作成を進めてほしい。

事務局からの説明に対して、何かご意見、ご質問等があればいただきたい。

→特になし。

(2) 第5期鶴見区地域福祉保健計画の今後の策定スケジュールについて(説明:事業企画担当係長)
資料3(第5期地域福祉保健計画(区全体及び地区別)策定スケジュールについて)をもとに、次の通り説明した。

資料は第1回推進委員会でご説明した内容について、7年度の策定の部分のスケジュールを更新したもの。現時点で考えている7年後の流れについては、まず、皆様にご意見をいただきながら素案を作成し、区民意見募集を行う。そこでいただいたご意見を踏まえて計画をまとめ、皆様のご意見をいただき完成となる。そのプロセスを経ていくため、次年度も2回の推進委員会、2回の策定検討プロジェクトの開催を考えている。

6~7月に第1回策定検討プロジェクトを開催し、素案の事務局案の構成等にご意見をいただきたい。いただいたご意見を踏まえて素案を作成し、7~8月頃に開催の第1回推進委員会で確認いただき、秋頃に区民意見募集を実施する。区民意見募集の結果をまとめ、12月予定の第2回策定検討プロジェクトで検討し、2月予定の第2回推進委員会で完成版の承認をいただければと考えている。

鶴見・あいねっと推進フォーラムについては、例年は2月に開催しているが、次年度は3月に開催し、第5期計画のお披露目を行う。

具体的な日程等は決定次第お知らせする。

(八森副委員長) 区民からの意見を募集しながら案を練っていくとのことで、来年度も2回の策定検討プロジェクト、2回の推進委員会を開催するということで、ご協力をお願いしたい。

(3) 第5期鶴見区地域福祉保健計画の地区別計画におけるフォーマット案について
(説明:事業企画担当係長)

資料4(第5期鶴見区地域福祉保健計画 地区別計画フォーマット(案))をもとに、次の通り説明した。

各地区の記載内容や、見やすくわかりやすくという観点についてはまた今後検討と考えているが、この場ではどういった内容を記載するかをご確認いただきたい。

第5期の記載項目は概ね第4期を踏襲しているが、掲載順の入れ替え、表現の変更といったマイナーチェンジを考えている。あいねっとや地区のことを知らない方が見た時に、最初に地区の特徴がわかる情報があればイメージが掴みやすいため、タイトルの下に追記したい。その下にこれまでの地区の活動状況や、それを踏まえてどのように第5期計画を策定してきたかを掲載する。ここまでは1ページとなる。本資料では便宜上、両面になっているが、実際は見開き2ページとなる。

2ページ目は第5期計画の内容を丸々1ページ使って作成する。最初にキャッチフレーズ、次に第5期計画で力を入れたいこととして、各地区で2~3ほど記載していただく。第4期では、「目標1」「目標2」と記載していたが、第5期では目標という表現をなくす形で考えている。

その意図は、計画の方向性と同様に、地区別計画を行政のノルマのように考えるのではなく、地区に関わる皆様が「こうありたい」という羅針盤のような形で機能していくようにとの思いから変

更した。あいねっとは福祉保健計画ではあるが、すでに活動を行っている方々だけでなく、地区に関わる皆様で目指す姿を確認し、共に目指していければと考えている。

この案をベースに、来年度上半期に地区別計画の策定を進めていきたい。

(八森副委員長) 事務局からの説明に対して、何かご意見、ご質問等があればいただきたい。
→特になし。

(4) 第19回(令和6年度)鶴見・あいねっと推進フォーラムについて(説明:区社協事務局次長)
資料5(第19回鶴見・あいねっと推進フォーラム チラシ)及び資料6(第19回鶴見・あいねっと推進フォーラム 冊子)にもとづき、次の通り説明した。

2月15日(土)13:30から15:30鶴見公会堂で開催する。第2部で毎年、地域活動の発表を行っているが、今年は鶴見中央地区の「鶴見みんなの会」という事例を取り上げる。内容については後ほど動画をご覧ください。

昨年度は計画の柱の一つである「つながりのある地域づくり」をテーマに、寺尾地区にある旭小学校、駒岡地区の2事例を取り上げた。

今回の「鶴見みんなの会」の事例はすべての柱に共通する。先ほど説明した第5期方向性案でいうと、柱1「多様な人や団体が参加し、つながっている地域」という点がまさにその通りであり、柱2では困ったときに気づいたり、お互いのいろいろな背景を理解しあったりという要素もある。柱3の誰もが自分らしく健やかに、居場所や役割があるということも当てはまる。今回は第5期計画の策定期でもあり、この事例を柱としながら、1事例のため、いつもより八森先生とゆっくりセッションしていただきながら、第5期計画に向かっていく方向性の確認になればと考えている。

冊子については、プログラムの通り、第1部で例年通り社会福祉功労者の方々への感謝の表彰を行う。当日は別添名簿を添付する。第2部で事例発表を行う。令和6年度の推進委員会等の振り返り、「鶴見みんなの会」の事例紹介、お楽しみイベントについて掲載している。鶴っこ部会の紹介もあり、例年通りフォーラム当日も障害作業所の製品販売を行う。P6以降は各地区別の取り組み、一年の振り返りの紹介等になっている。当日、区社協のボランティア・市民活動団体分科会のメンバーが、それぞれの活動内容の掲示や、簡単なクイズにお答えいただくと景品がもらえるコーナーも用意しているので、ぜひご参加いただきたい。

この後、みんなの会の事例紹介の動画を見ていただきたい。

(動画視聴)

(八森副委員長) 推進フォーラムで使われる動画を見ていただいた。私も先日、「鶴見みんなの会」に参加した。動画の中で、中学生ボランティアが「ボランティアを通して自分が変わった」と話していたが、今回のあいねっとを通して伝えたい要素がここに含まれていると思う。インタビューしながらフォーラムを進めていきたい。

事務局からの説明に対して、今年度の推進フォーラムの企画、冊子について、この通りでよろしいか。
→異議なし。

(5) 意見交換（グループワーク）【テーマ】～垣根をこえてつながるまち・鶴見を目指して～

（説明：区社協事務局次長）

先ほど事例をご覧いただいたが、推進フォーラムのテーマが「みんなで作るみんなの“あいねっと”～垣根をこえてつながる鶴見～」であり、この「垣根をこえて」が重要なキーワードである事例だったと思う。今回は推進委員会の中でも「垣根をこえて」という部分について皆様と一緒に議論できればと考えており、いくつか話題提供したい。

「鶴見みんなの会」の補足として、最初から外国籍の子どもや中学生ボランティアがいたわけではない。会の名称に「みんな」とあり、思い入れがあって名前をつけたが、地区には外国の方もたくさんいるのに参加しておらず、本当に「みんなの会」にしないと思っていた方もいた。最初は受け入れ側にも心配の声があったが、いろいろな人の子育ての経験や苦労した話等を聞き、徐々にいろいろな人が集まるようになってきた点も、勇気を出して垣根をこえた事例だと思う。動画の中では外国にルーツのある方も多かった。中学生ボランティアも来日当初は言葉がわからず、コミュニケーションが取れずにつらい思いをしたこともあったが、ボランティアをすることで「自分は人と話すことが意外と好き・できるんだと気づいた。人生が変わった。」との話があった。ボランティアをしている時はいつもと違う輝き方をしているとの学校の先生の声もあり、子どもたちにとっても壁を乗り越えたということ。

次に、駒岡小学校の地域防災拠点の事例を紹介したい。昨年度の推進委員会で、松坂委員が地域の防災拠点の訓練に視覚障害のある自分も参加したいと言ってくださったのがきっかけで、地区担当の高齢・障害支援課の高橋課長が地区の方に相談し、防災訓練に参加されることとなった。地区の方は専門的なことはあまりできないと躊躇されたところもあったそうだが、駒岡地域ケアプラザのサポートもあり、実現した。松坂委員は実際に簡易トイレを確認されたりなど良い機会になった。今年度も参加されたとのこと。後日談として、駒岡地区には鶴見支援学校があり、もともと障害に理解がある地域ではあるが、今年度は区役所の方が講師になり、障害のある方が避難場所にいられた際に気を付けることについて講座をされた。これは横浜市社協が作成しているパンフレットで、障害のある方が並ぶのが苦手な場合等の対応がまとめられている。コミュニケーションボードもあり、特に知的障害の方との意思疎通にも活用できる。災害時専用のコミュニケーションボードもあり、ホームページに掲載されているので活用いただきたい。さらに今回の話とは別に、駒岡地区の放課後等デイサービスが、松坂委員が訓練に参加されたことを聞いて是非と参加を希望され、今年度、実際に参加された。地域側も放水ホースに車いすが引っ掛からないように段差解消グッズを使うなど工夫された。このように、松坂委員の一言があり、お互いに新たな人と出会った事例である。

次に、寺尾地区のひびきの会という高齢者ミニデイサービスの事例についてだが、ひびきの会は月2回、30年ほど活動しており、食事も提供している。ここ数年来、不登校や、なかなか就職できない方のボランティアの受け入れを複数していただいております、お互い良い出会いになっている。区ボランティアセンターには、不登校や、メンタル面の不調で退職し、社会復帰の一步にしたいなど事情を抱えた方のボランティア相談が多い。ひびきの会の方に相談したところ、代表の方が理解してくださり、当初は事情を全員に伝えることなく、さりげなく参加していた。今は全員で共有して参加している。中には小中高不登校だった方も参加しており、机の移動や盛り付けの手伝い、お話をするなどされている。3人がボランティアとして参加し、進学された方、就職が決まりボランティアを卒業した方もいる。卒業が決まった時は感謝状を渡して送り出した。本人はその時の写真を壁に貼って励みにしているとのこと。社会復帰のためにまずはボランティアでと考えるが、自分に合うところを探すのは難しい。ひびきの会がスムーズにその方のあたたかい居場所になっていくのは、もともと皆さんがあたかかい、家族のように話しやすい雰囲気があるからではないか。特段、

優しくも厳しくもしないが気につけ、疲れているように見えたなら「休んでいいよ」など声かけをしながら接しているとのことだった。会の方とあいねっとの話をした際、「こういう活動があいねっとかな」「はじめは不安もあったが、今となっては自分たちの自信になったし、自分たちが嬉しい気持ちになった」との話があった。

この3事例について、通常の活動では出会いにくい方が参加される際、受け入れにも不安があるが、勉強したり話を聞いたりしながら、実際に出会っていく実践を紹介した。印象的なのは、どちらか一方が提供するのではなく、両者が嬉しい、得るものがあったという点。グループワークでは、皆様の活動の中で垣根を感じていること、できたらいいと思っていることなど話し合いができたかと考えている。

(八森副委員長)事務局から説明があった。「垣根をこえてつながるまち・鶴見を目指して」をテーマに、既存の垣根を越えてつながっていくために、関係団体・機関で行っていること、今後できそうなこと等について、意見交換していただきたい。

<3グループに分かれて意見交換(約30分間)を実施した>

【意見交換のまとめ】

(Aグループ)

- ・冒頭の動画や紹介事例についてコメントいただいた。とてもいい事例ですごいという率直な感想や、実際は人手不足もあるのでそう簡単ではない、区、社協、ケアプラザ等の支援が重要ではないかというご意見もあった。
- ・垣根とは、年齢、障害の有無、こどもの有無等、様々。こどもがいる方いない方ではそれぞれの捉え方、働き方、思いが違う。資格の有無という話もあり、専門性があれば手伝いができるが、ないと手伝いができなくなるとそれが垣根になるのではないか。
- ・性の話、認知症、マンションが多いのでそういったところでの実際の垣根、生活困窮などの様々な垣根がある。話し合うほど難しいが、ではどうすればいいかとなった際、「鶴見だろ」との大きな一言があった。垣根はたくさんあるので考えても仕方ない、鶴見全体で、役職関係なく、やりたいという人が集まれば、個々や町会単位では難しくても、鶴見という大きな集まりになれば動きができるのでは。
- ・2027年鶴見100周年に向け、全力で、みんなでやりたいことをやれば、垣根を取っ払いやりたいことがやれるのではないか。

(Bグループ)

- ・何を持って垣根なのかというところから話し合った。垣根とは見えないから曖昧で、だからこそお互いを知ることが第一歩。例えば障害についても、見える障害だけでなく、精神障害など外から見えないがどうわかってもらうかが大事との話が出た。
- ・区での障害のある方の家族写真展も見える形で、知ってもらう第一歩。見えない障害については、そのことについてよく知っている区や社協等が知らない方に伝える役割を担うのも、知ってもらう一つではないか。
- ・何か会が立ち上がった、団体があると、その中で能力の差や目的にそれぞれ違いが出てきて、一人の人が誰かを排除する傾向が生まれることがある。企業でもどんなところでもある話だが、できないことばかりを強調されると運営側も参加者側もどちらもつらくなるので、できることは役割と

してやってもらう。支える側、支えられる側の構図になると続かないので、分け隔てなくというのがやはり大事ではないか。

- ・みんなの会はまさに会の自由さが肝。会が余裕を持って運営できると受け入れやすいという点で、ボランティアが心強くなってくる。自分でできる範囲で、誰かの役に立っているという実感が大切ではないか。
- ・垣根をこえるとは、価値観の違いを知ることではないか。価値観の違いを知って共通認識を持てるかということところが垣根をこえる第一歩になるのではないか。
- ・地域力推進担当でも、業務の中で地域と団体と企業、学校などいろいろな立場の方をつなげることを意識している。まさにそれが肝であるとの意見交換で感じる事ができた。

(Cグループ)

- ・紹介事例に関連する、それぞれの委員が関わっている活動について紹介いただく中で、垣根をこえたようなことについて話し合った。
- ・国際交流ラウンジでは多文化共生の取り組みを多数行っている。みんなの会のミーティングの様子も共有いただき、とにかく楽しそうにやっていると特徴的とのこと。今までこどもをターゲットにした取組はやってきたが、高齢の方も増えてきているので、今後は高齢者向けの取組もやっていきたい。すでにケアプラザと一緒にケアマネジャー向けの研修会も行っており、講座等も今後取り組んでいきたい。
- ・保健活動推進員は子育てサロン、赤ちゃん会等にも協力している。区界になると、人気イベントには区外の方も多数参加しているが、断らずに参加していただいている。自分たちが垣根を作らないやり方かと思う。
- ・寺尾第二地区では小中学生の声を拾い上げることを進められている。意見が出たら具体的にどこまでできるか難しいが、区などいろいろな機関につなげることが自分たちの役割か、つなげることで垣根をこえることが大事との話があった。こども食堂のような取組である「学んでごはん」は、単に食事だけでなく学習支援も行っている。食に困っている人だけでなく、幅広い方が集まれる場として、母の体調不良、出産などいろいろな事情で急遽、困った方も受け入れている。学校からも相談が入るほど、学校からも頼りにされる存在になっている。
- ・視覚障害について、移動はガイドボランティアも活動されているので、その気になればいろいろなところに行けるが、白杖を持っていないと見た目理解されにくい。視覚障害者でも自分から情報を取れる人とそうでない人とで格差がある。メールができると情報を取りやすいが、意外と新聞やタウンニュースで取り上げられることで参加できるイベント等の情報を得られる。
- ・「学んでごはん」もタウンニュースで取り上げられて知ったという例もあるので、そのような周知もあると知るきっかけづくりになる。

【八森副委員長からグループワークの講評】

垣根とは何かについて議論いただいた。垣根の多くは見えないもの、経済的な話、資格、こどもの有無、性別、エリアも自分たちが作っている一つの垣根、世代というよりも年齢、国籍、いろいろな障害、集合住宅や戸建てなど居住場所による垣根もあるのではないかとの話があった。

垣根があることの影響は格差につながる。一例が情報であり、いろいろな意味での格差が生まれて不安が生まれ、つながりがなくなっていくとの話があった。越える垣根は区民、関係機関、区役所の壁を乗り越えなければだめだとの話もあり、超えるために何が必要かの本質的な議論が多かった。

知ることが大事という点で、サポートセンター、情報センターが障害等の垣根によって違いがある、

ほしいときに情報が得られないとの話があった。その人がどんな人か知ること、お互いの活動を知ることが大事なので、フォーラムでも展示するだけでなく、ボランティアも他を見に行ったら良いのではとの話もあった。

いろいろな場所に参加することで楽しさ、役割を覚え、喜びになり頼られるという流れになると、いろいろな壁を乗り越えることができる。そこから楽しさも生まれてくる。

風土として、多様性を認めて、やるやらない、やってもいいしやらなくてもいい、できてもいいしできなくてもいいということを認める風土がないと、いろいろな壁を乗り越えることは難しい。自分のできること、したいこと、得意なことのパーツをうまく組み合わせる、つなげることが大事との話があった。

今回の発表で良かったのは、ニーズを起点にして動いていること。今何が必要かをテーマに、ニーズから発信されて自由な発想でゆるやかに、ある程度の柔軟さが大事との話があった。

価値観を共有できるといいが、まずは違いを知ることから共有につながるのではないか。「みんな鶴見だろ」などの掛け声は案外良いのではないか。声を拾って区に届けている、子ども食堂を学ぶ場としても活用し、急遽必要な人もつなぎ、学校からも地域からも信頼される場所になっているとの話もあった。

こどもに向けての取組は多くなっているが、再度、高齢者に目を向けた活動も考え直す必要もあるとの話もあった。ケアマネジャーなどを巻き込み、講座をするなど高齢者を対象にした取組にも着手しているとのことだった。

情報はよく使われているタウンニュースが良い媒体になっているとの話もあり、必要な情報を出すことがやはり大事。マンパワーの支援があるといいとの話もあった。

本質的な議論をして、今後、フォーラムやあいねっとで考えていくことが大事。垣根とは何か、それを越えるためには何が必要か本質的な議論ができたので、この内容を計画に言葉として盛り込んだり、具体的な活動としてあげられるといい。

(6) その他

○横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた鶴見区アクションプランについて

(説明：地域包括ケア推進担当係長)

資料(横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた鶴見区アクションプラン振り返り)にもとづき、次の通り説明した。

鶴見区アクションプランについては、例年この場で報告している。高齢化が進む中で、元気でいていただけるのがまず大事であり、地域で支えられることが大事という点があいねっととも関連するため、この場を借りて説明したい。

アクションプランは、2025年に向けて、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みである地域包括ケアシステムを推進するための市の計画を補足するものとして区で策定した計画である。

地域包括ケアシステムのイメージ図があるが、区、ケアプラザ、専門の医療機関や介護職等が連携しながら進めるもの。元気な場合は介護予防や生活支援を受けながら自宅で暮らし、年齢を重ね介護や医療が必要になった場合でも、安心して自宅を中心に在宅サービスやかかりつけ医等のサービスが受けられる地域を作っていこうとのイメージ。

鶴見区のアクションプランでは5つの分野を掲げている。介護予防振り返りとしては、区内16か所ある元気づくりステーションの支援を継続的に行った。また、「ひざひざワックン体操」等の講座を開催した。参考指標として、令和5年度の通いの場の参加人数は4,249人となっている。

多様な主体による生活支援の充実については、ケアプラザの生活支援コーディネーターが中心となり、地域のサロンやボランティア活動支援を進めている。今年度は買い物支援に関するアンケート実施した。写真は寺尾第二地区のタクシーを活用した移動支援の取組である。

在宅医療・介護連携については、毎年、専門職が顔の見える関係構築を進められるよう、研修を開催している。今年度は服薬支援をテーマに実施した。参考指標としてこれまでの参加人数を記載している。

認知症対策については、8から10月にケアプラザ等と協働で認知症サポーター養成講座を実施した他、啓発のパネル展も実施した。写真は市場地域ケアプラザでのパネル展の様子である。認知症サポーターとして21,765人が区内で登録している。

権利擁護については、広報よこはま鶴見区版9月号でエンディングノート、もしも手帳を紹介した。エンディングノート講演会も実施した。広報の効果もあり、エンディングノート配布数は今年度、800を超えており、とても反響をいただいている。

2025年目標に取り組んできたので、今後、市を中心に振り返り、次期プラン策定を進める。推進委員会でご意見をいただくこともあると思うので、よろしくお願ひしたい。

○来年度の予定について（説明：事業企画担当係長）

次の通り、来年度の予定について改めて説明した。

これまでお話いただいた内容を踏まえて、事務局で素案を検討し、来年度6～から月に開催予定の策定検討プロジェクトでその時点の案をお示しする。今年度は推進委員の他にメンバーを追加し、策定検討プロジェクト開催した。昨年12月に、あいねっとをもっと身近にするために意見交換していただき、いろいろなご意見をいただいた。それをどうしていくかということもあるため、今年度同様、来年度も活発にご議論いただきたく、何らかの工夫をしたいと考えている。詳しい日程は後日お示しするので、ご協力よろしくお願ひしたい。

また、本日の議事録は後日ホームページに掲載する。内容の確認については、委員長に一任いただきたい。

5 閉会

（小林委員長）ご参加いただいた皆様には、本日出た活発なご意見や八森先生のお話を各団体に持ち帰っていただき、それぞれの分野において連携をより一層進めていただければと思います。